

新編水滸畫傳

三編

十

875  
30



門 21  
號 875  
卷 30

新編水滸画傳卷之三拾

東武 高井蘭山翁 譯編

明治三十二年  
七月十日 講求

○宋江夜小鰲山と看

借も王英の半ハ羞ぢ。半ハ岡ノ更ニ夢も出まさるくもまられハ宋江自身と携へて廳上ニあり。再ニ再ニ休て云々。足下自ら岡ノあらふと云々。  
系後日々。一人の美女聰明伶俐なるを擇び出し。山陣に送り。  
えん間只よりしくれと共に。長遠の娼を日々。大丈夫既に一言を出し時に。  
駟馬と追ぎと云。あれを系誓て約と失ふとあり。燕順鄭天壽これ。  
と云て共に可くも笑ひられる。王英心中に岡と云々。宋江が威風且礼儀。  
義小郷られ。只自ら怒むを急と荒しくも笑ひと催しり。扱又法則。  
風寨の軍率ホハ怒むに夫人と棄ひぬれやじと好す。寨裡小飯列。

新編水滸画傳卷之三拾

一

劉知寨ふつて清風山の強盜お主人と奪ひ取れりう一告りぬる劉  
知寨とぞ大ひお怒り罵り云汝ら何ぞかこのむ懦弱く我を奪ひ  
取れり我を汝おと鏡とて乃ち棒撻ぬ七八人の軍卒お散  
らふおろく軍卒お分れしと云るのあつ僅七八人のお勢あるお紙お散  
らふ十人の大勢あればいんどう汝お對して故と云はんとはんや相公  
これと云ふ人劉知寨の益怒と云は汝おの面目ありてかくのこすことと  
云ふおの我を奪ひ取れり入軍を斬断おらばと軍卒お分れしと云  
て大お怒れ汝お寨中の兵七千人と信じて吾を賊と指し清風山お陣  
を奪回さんと欲し已に軍を歩出らぬに彼お人の驕夫忙しく驕と  
昇て飛ぐく弛まらぬ軍卒お是と見て急にお迎へ同るお夫人はいり  
算計に固くお紙お脱れ山を下りまひいど女お紙お我を捉へ山陣

小上りし我自ら劉知寨の夫人とることを云れば彼ら大お恐れ我を  
お乃ち山下まで送て我を回しぬ法の軍卒とも脱首して云らぬ夫人  
り肯てまあぐ命令を救ひぬんと云ふに相公は見えぬ時とありが  
力きておひ夫人と奪ひ回しとのまじわれお後さすんおあか罪  
決して免れぬらん那女お我自ら云へに必ず憂ると云ふれ  
法の軍卒を大ひお怒りお謝し給う驕と中央に丸圍んで忙し  
寨裡に回りぬれ劉知寨これを見て大お怒り夫人は向て云らぬ汝の  
お怒りておひ急ぎ回りぬるや彼夫人は盜賊お我を捉へて山陣お登り  
五三戯れと云ぬれ我を殺してこれお従はざらん彼大ひお怒り已に殺  
さんと云ぬれ我遂に彼お對しそり我は清風寨の劉知寨お夫  
人たるに汝お我を殺すと云ふに山陣お滅亡せしと嚇し

乃れバ彼等忽然として大小恐れ、我を遂て山下に  
奪ひ、軍率亦剣戟を振て奪り、遂に我を奪復して  
馳四、劉を以事と  
つて大小悦び、乃ち十搦の酒と一疋の羊とを以て軍率亦を賞し、  
劉知寨が夫人を救ふてより、七日も山陣に逗留し、乃ち山を下りて  
劉知寨が方へ往くと欲し、乃ち三人の既於小別れを若山と下んとし、亦め  
るん、二人の既於若山の爲め、宋江已に急を以て、乃ち三人の  
既於已とせ、遂に酒宴を設け、別れの盃を勅めり、三既飲又各黃金  
若干と宋江小送て、餞の儀を表し、乃れ宋江を收めて、感謝し、夜  
三更の對小坐て各歌り、聖朝宋江未明小記て、子飯を食し、  
と今、個乃ち三既飲小辞し、山を下りし、二既飲小城、多送へ、  
林の爲、二十餘里と送る、再宋江小約して、云々、押目、清風寨より、回

可小附ハ必ず山陣小立倚ひて、拜ひ、糸をさす、  
に別れを惜む、宋江源く、これと謝し、遂に三既飲小別れ、清風寨へ  
わかれ、自ら包袱を背、小携、遂に小賽辺へ至り、人小花知寨が、  
人答て、小知に、友寨あり、正南の上より、大寨ハ、文友、劉知寨が、  
水の上の小寨ハ、文友、花知寨が、住す、乃ち花知寨小事め、  
乃ち宋江は、是を以て、大小悦び、乃ち正水の寨を以て、馳來り、  
遂に小門へ入て、  
至て、窺ひ、乃れ門を叩き、軍率宋江を見て、其姓名を以て、  
知寨小別れと告る、乃れ、時も移り、一人の年若き、  
軍友を以て、出、先宋江小  
向て、拜せり、乃ち、人の相貌、眉清目秀、齒白唇紅、  
凛々として、好一人の豪傑、之乃清風寨の、  
宋江に、宋江と、延々、廳上に入り、乃ち、清て、  
中央小坐せり、又、身を、



新編水滸傳卷之三十一



新編水滸傳卷之三十一

仁をせむひ乃ち儀に坐せ陪して慇懃小云々は素押司小別れきて  
 ようい來を又六年と云々ぬ素為小押司のこの夕夕小掛り益渴  
 志の懐に逼り乃れに頃日人の傳へ云と夢るに押司がて間婆婿と云ん  
 云女を殺し白ひぬれ友司が賞錢を世て方と搜し亦はさるる沙汰ありし  
 素恰も針の毡小坐する心地連く小十封作りの書笈を素と押司の起  
 居せ居るに今日押司駕と狂と鄙令小あり白ひて素一生の收び儀  
 小宿預小務るる宋江大嘆と云賢才何為再と慇懃の言と云々也  
 我男と賢才の義徳と接へ深く厚意と感しぬ是故這回偶來なり只宜  
 しく坐せ寛げ余儀すむとも彼間婆婿と報しるるもいかに宋江友人  
 孔大云ホが敏に還留しるる事及び武松に遇する事又清風山にて結捉られ却て  
 燕吹ホ三郎飲り懇情と交する事一く洋に送りられ花榮ひ云と夢て嘆息

斜らりて云るハ押司のこの禍の小遭のい噂を公と怪しむひつらん  
 今日意然いこく比下にありやふよハハハも憂へあふと云まじと云且數ヶ年私  
 室に滞留し之を因守しるる商儀と云るべし宋江云我向に宋江が  
 敏にわじ時老父と歩りに憂へ老ふる由素才宋江と聞して老父と訪らむ  
 り和に老父と恙なく入友司の事も漸息ぬる由素宋江已に書笈と孔大云  
 敏小素と妻細の事と我小若るせり素比賢才の書笈と共送る所ぬ  
 くれ小敏と賢才の深く懇情と事と知り今日特く家宅小相候しるるに  
 果しむびのこの懇の存念誠小感佩のあり花榮が云先も已に送りぬ  
 ごとく連く二十竹封の書簡を望して押司の起居せ修ひまじり云々  
 五等でも送りし紙に素後令才宋江公已に放りぬりて乃ち書簡を素と  
 白ひて押司ハ今孔を公が敏小居ゆふと若知らせぬは是故小素近人

と孔右公の館小馳て押司と邀へもんとを思ひつた料は今日光條と  
 勢は是天の賜に於れども祇娘は何の款待でも受けよと先宣く  
 後堂小移り休息し又も自ら宋江と延て後堂小入り早速妻崔氏と  
 呼出して宋江を扱せ又妹も共に呼出し口々宋江を扱せり好て新  
 しき衣服と引出して宋江小恙させ後堂小於て酒宴と設け伎く飲酌と  
 催しぬは時宋江被劉知寨が夫人を救ひしと一は後に語り及ば花榮これと  
 夢て忽ち双の眉と皺めて云々花榮何の来歴とを記に被女と救ひおふいん  
 却て彼と滅かさんとを思ふ宋江はと夢て大に悔し別ち宣て云々花榮  
 何由乞ひのどれと云々我を只賢才の月僚とる人の妻とるに依てこそ  
 再と再に頼りに王英と練め遂小救ひ給て再び甲じめなるに賢才却て是と  
 呪ひおふがら必定縁故わらん速小れと語り花榮が云押司はいまご

知りあふまじつは清風寨ハ嘉州第一の要害なり一人は寨とすり内ハ遠  
 近の盜賊ホ敢て一人も来る事なかりしに今彼劉高忠を以て正知寨とす  
 擅に己が勢ひホ素とて居民を捕し法度と破ても非乃とるは由は民  
 の苦む多しとして盜賊内より起り素を或友とて副知寨とるに  
 毎度彼に欺れ眼も骨髄ホ徹り終る彼と殺すべきと思ひつるに  
 いんぞ彼が妻と救ひおひぬる也計し被女大いに毒ありたう一  
 向夫と攬撥て不仁のことと行はしめ也  
 黎民の怨結と貪りて不義の  
 の材と集んと款を言ひ被女小玷辱と羞りしめて天罰をも知せんぬ  
 とぞ見誤つてこれを救ひおひしと夢て後悔之宋江は言と夢て別ち  
 練めて云賢才の言差へり右の涙小も冤仇解べ一結べり  
 呪や彼ハ今賢才と月僚の官をれば又他人と月とらば對小被ハ文墨の人

されど假令少一の事ありとも。只よろしく忍び強いて若と揚交へ。賢者向  
 後必を恨と過て交りて執し。し。更花榮は云と感して云。花榮の曰。不  
 は。一。これ賢者の見識。来明日公解の内。劉知寨不見え。な。彼が妻  
 と救ひ。ひ。お。と。一。告知せ。い。ん。宋江が賢者。肯てかくの。と。ん。ん。  
 正。ふ。よ。親切の。情。規。を。れ。て。け。い。う。平。生。の。交。り。互。に。睦。し。く。す。べ。し。花。榮。の。い。く  
 ぞ。云。ふ。服。し。ま。ぬ。態。懇。小。宋。江。と。款。待。ぬ。を。夜。二。更。の。時。に。酒。宴。已。に  
 早。り。乃。れ。ど。花。榮。別。宋。江。と。違。て。後。堂。の。内。小。歇。せ。り。翌。日。又。酒。宴。と。設  
 て。宋。江。と。款。待。慈。情。と。ぞ。一。意。換。の。神。あり。一。は。是。り。宋。江。は。又。六。日。と。は。区  
 別。に。花。榮。女。下。の。軍。士。小。令。し。宋。江。と。街。小。守。せ。被。殺。の。風。系。と。遊  
 覧。さ。し。め。ら。れ。ば。宋。江。は。已。小。日。と。始。り。て。毎。夜。軍。士。小。誘。引。せ。り。或。は  
 榮。驛。又。は。酒。肆。及。く。あ。ら。び。と。云。れ。り。け。日。宋。江。被。軍。士。と。共。に。小。杓。探。と

云。ぬ。に。替。り。俳。洞。し。て。風。系。と。遊。覧。し。ま。し。う。並。に。村。中。に。馳。て。寺。院  
 寂。寂。と。一。宵。を。遊。び。又。街。の。上。に。繞。り。出。て。酒。肆。に。あ。り。良。久。く。酒。と。砂。で  
 弄。り。り。り。宋。江。の。い。く。ま。る。と。毎。日。あり。し。ふ。寨。裡。に。還。る。ま。る。と。一。月。後。小。及。び  
 ぬ。く。臘。月。ま。ま。圓。り。又。小。元。宵。小。あ。り。乃。れ。は。法。風。寨。の。民。も。土地。大。江。廟。の前  
 に。一。ツ。の。小。鰲。山。と。造。り。そ。う。上。六。七。八。百。の。花。燈。と。設。け。街。の。上。に。六。千。百。の  
 燈。を。あ。そ。く。來。し。喧。嚷。り。然。も。寨。の。繁。榮。一。如。され。た。け。れ。も。亦。人。間。の  
 天。上。より。の。時。花。榮。の。下。の。軍。士。小。令。し。嚴。う。小。寨。の。口。方。と。あ。り。し。め。あ。り  
 遊。戯。碎。漢。の。後。と。防。せ。り。宋。江。花。榮。小。對。し。て。云。ら。る。は。今。宵。は。高。地。の。街  
 の。上。に。万。子。の。花。燈。と。點。し。初。の。光。系。由。も。多。く。儀。々。と。る。と。を。見。る。官。一。く  
 馳。て。一。階。上。可。あ。り。ん。や。花。榮。が。云。来。も。老。小。必。見。と。守。り。共。に。遊。覧  
 せん。と。思。ひ。乃。れ。亦。只。恨。ら。く。は。知。寨。の。賊。と。な。り。め。由。あ。あ。り。に。遊。び。す。と。能。は



長兄り一覽し自ん有るふ家今奴僕二三人と長兄小跟て待すべしつらふやく  
花燈せんと回り有る家小立てあつて長兄の回り多ふと待す共の之益を  
的で佳節を慶すべし。宋江が云既にかくのどくんば足下を助小在て待す人  
我の花燈と着て少刻回るべしとて乃二三人の家僕小引れて街ふる。口  
面八方小纏て遊覧するに門く戸く小控くの花燈と妙多きこと幾子  
万と云敷とあつて宋江大少撰英一選小土地大王廟の最中て彼小鰲  
山の花燈と見るに或る金蓮燈玉梅燈或は牡丹燈芙蓉燈を并待す  
の故事を用ひて。燈籠と傍りしふ。鰲小英くしと佳節あり

元宵と正月十八日の上元七月十八日の中元十月十八日の下元と云支那の  
俗正月十八日夜市中の家が懸竹と巨し種々の花燈と架並べ  
たり人の路上煮く燈籠あり。其外に遠くあつた燈籠多く新奇と

出。今小鰲山とわりの蓬萊山の形と造り。是へ燈籠と交へ掛らるる  
日中の中元の佳節と云のふて上元下元といふ。土地大王廟と西の法  
也と云ふこと

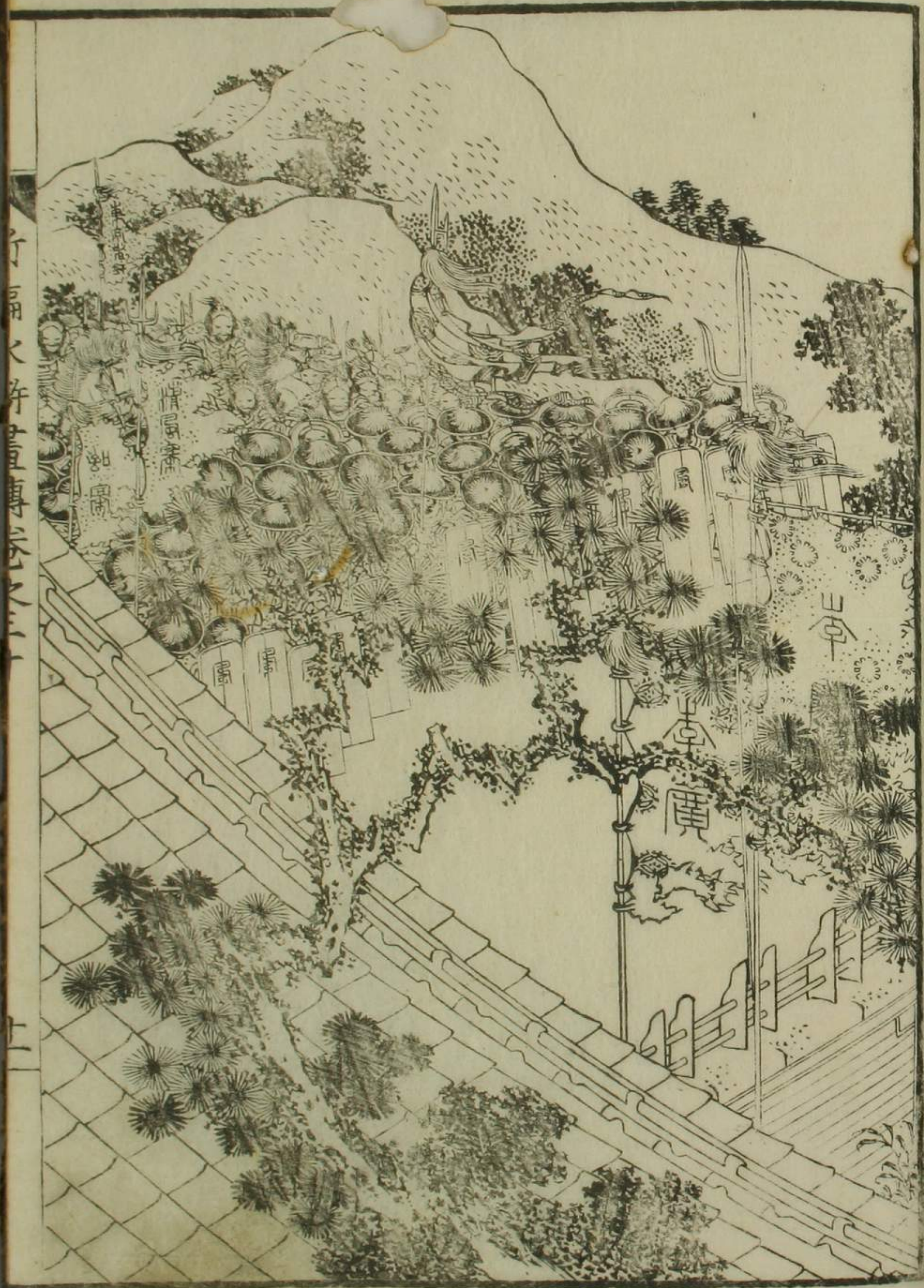
此対宋江二三人の家僕と共に良久とまて普く遊覧し終り里許り  
て對向とるに對面燈籠熒煌とて一夥の人雲霞のどく集て大壇  
院の門前と圍へば宋江何事かを尋ねと近く向ひをんでこれとるに幾  
くの人鐘鼓を吹鳴し。舞を奏して騒ぎたり。宋江法人の後小立てられせ  
るにこれとるに宋江の系身材矮き小漢子と云ふ備にこれとるに秘まは  
ぬに謎ひ甚し二三人の家僕法人を推かす宋江をせり。公法人の前を  
出てこれとるに彼舞の最末究りて長風小歩扮る由る宋江是れを放  
て嘆いするぬに壇院の内へ。劉和寨夫婦を樓の上に登つて舞をよんで

被夫人不思宋江苦命ひめとて忽ち夫劉知寨小若て云々は今彼等ひる  
 漢子こそ昨日我と信風山小奪行し盗賊の首を軍へくられ捕へる  
 られと夢て大いに驚き壯しく左右の家人小命ト宋江と捉しむ宋江は  
 見りて面をむけ外面に走り出後二十歩許り至りんとせしに七八人の軍士  
 虎が羊羔狐嘯ふ小似し。被軍士亦大いに宋江を罵て云々の汝大織いんぞかく  
 大膽にけしめらるるぞとて遂に劉知寨の廳前小引出しぬ被宋江と奪  
 て来りぬ三人の奴僕は宋江が活捕れとて大に作匠且まうし主入  
 死知寨小若として三人齊しく足と飛せ地叩ぬ被劉知寨の廳前に  
 かく待居る軍士亦と宋江を活捉て廳前に引出しぬ被劉知寨  
 宋江と見て大に怒り汝は信風山の賊を小わらばやいんぞ擅にけしめらる

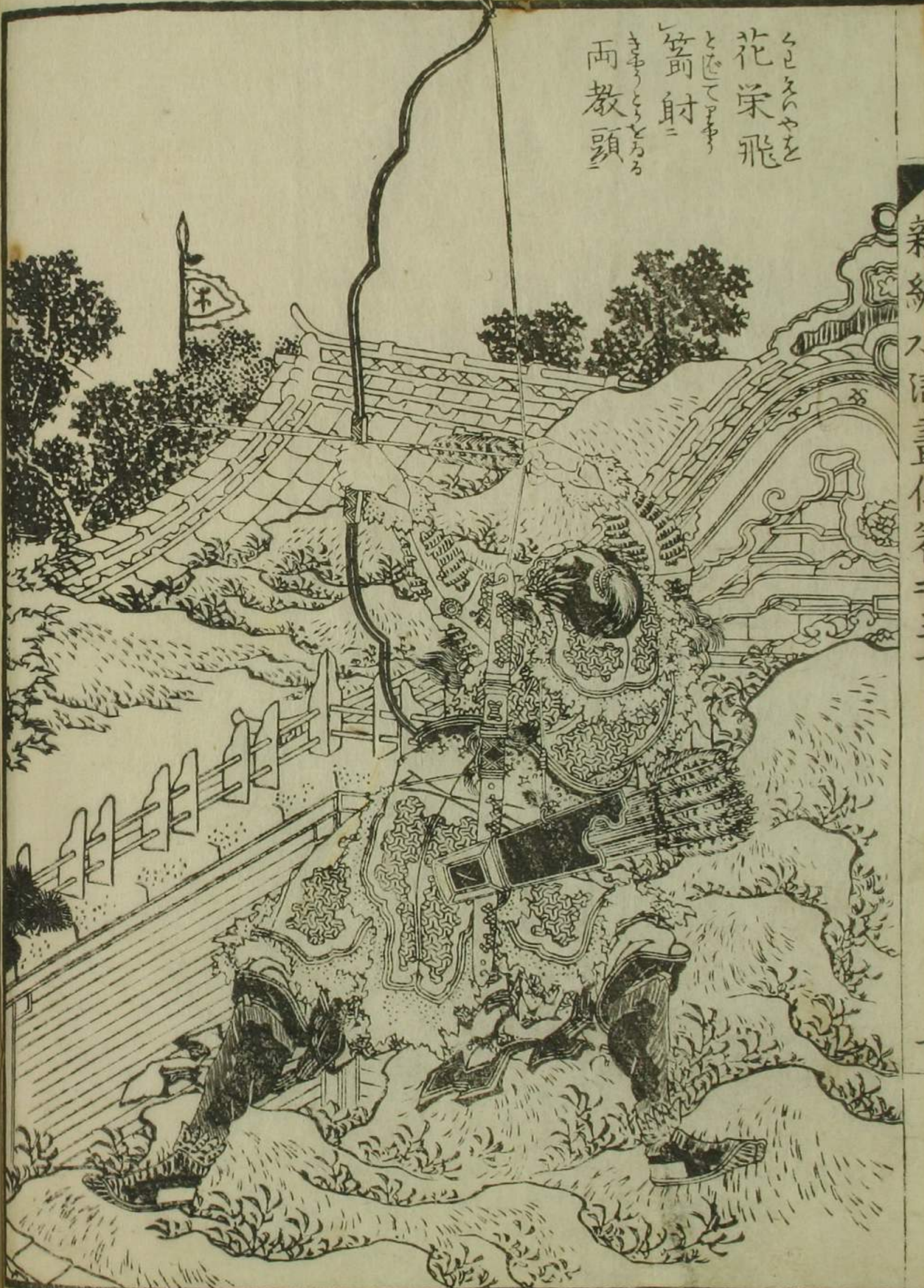
自ら死に執りて宋江若て云々素はなりと鄆城縣の者も各々張とて花知  
 寨と旧友なるより多日花知寨が家に逗留せり竟に信風山に上りて  
 織とせしとほお公得て我と織と思ひぬふはけ時劉知寨の妻屏風の背後  
 より走りかて大に怒り罵りし汝奸賊日外信風山小立て我不見えんハ  
 定て我記えぬらん。いんぞ再三見と抵難や宋江は女を見て壯しく言へ  
 らへ夫人何れかくのどれとて云々のや。時我已に夫人小對しと云々我ハ  
 本は山の大妻の刻ち鄆城縣より走り旅人として若き何ぞ也  
 と忘れぬや。劉知寨は汝已に旅人として何れ又信風山に上りて汝を  
 一く無理不為に我堂にてこれと修せんや妻又云彼日山陣小放て第一位  
 の席小坐し擅に我をして大王と稱へしぬ。又り織をたわしむんば汝ハ何  
 とぞ。宋江云我向小再と被取候とて保めて夫人と救ひぬるに夫人ハ何れ今日

我を捉へし城をよこす。是則仇を以て恩小報せむ。正し夫人自ら、  
 うくんと泰く更け女大小怒り。宋江は指す。汝奸賊尚かくのこく。抵  
 殺んとす。や。痛くおとせ。へんぞ肯て白状せん。更しくおく。お  
 と。再三劉知寨と諒められ。劉知寨終りと曰。劉左右に命じ。宋江と  
 曰。十鞭歩し。めぬ。ぬに痛す。い。宋江へ皮骨け肉綻れ。鮮血滾々と流れ  
 り。劉知寨又左右に命じ。と。云先と背へし城と梁の上に吊死して。際しく  
 ち。十日。翌日。州裡小道。罪と改めんと。議定し。宋江を捉れ。と。書り。れ。は  
 家僕慌忙と馳。叫り。劉知寨。不き。え。て。宋江が捉れ。と。書り。れ。は  
 花知寨。これ。と。書。て。大小。警。さ。忙。し。く。一封の書簡と。修。へ。劉。知。寨。の。門。前。に  
 僕。と。劉。知。寨。の。家。に。馳。て。書。簡。と。送。り。せ。り。ぬ。に。お。人。不。迷。劉。知。寨。の。門。前。に  
 あり。ち。門。の。軍。士。に。形。と。告。り。ぬ。軍。士。内。へ。入。り。て。花。知。寨。が。使。者。の。う。ち。に。報。し。

劉知寨これと報し。讀み。文。小。い。も。  
 花榮拜上。僚兄相公座前。所在薄親。劉丈。近日從濟  
 州。來。因。着。燈。火。誤。犯。尊。威。萬。乞。情。恕。放。免。自。當。造。謝。  
 草。字。不。恭。惟。願。照。察。不。宣。  
 劉。知。寨。書。簡。と。見。り。て。忽。ち。大。小。怒。り。乃。書。簡。と。扯。破。て。使。者。が。前。に。投。去。  
 ぬ。再。三。罵。て。云。乃。は。花。榮。果。して。初。の。こ。く。大。擔。身。や。汝。も。是。胡。廷。の。友。  
 人。を。殺。し。て。法。度。と。ち。り。ぬ。に。却。て。盜。賊。と。通。同。せ。り。い。ぬ。彼。賊。  
 自。ら。を。名。と。告。て。鄆。城。縣。の。張。三。と。申。さ。し。と。云。乃。は。花。榮。今。又。彼。が。姓。名。  
 と。劉。丈。と。去。し。我。と。同。姓。と。し。め。て。重。罪。と。免。す。め。んと。思。ふ。我。汝。が。姓。小。  
 人。小。欺。ね。や。と。益。怒。り。乃。左。右。小。命。と。て。花。榮。が。使。者。を。門。外。に。趕。出。し。ぬ。使。



新編入清書傳卷之三十一



花榮飛  
とびて  
矢射  
きゅうとうとある  
両教頭

新編入清書傳卷之三十一



勇猛小怕れ尚先ず志有りし各後に噪動し一時を移し夜も漸く曉  
 たるれぬべし時先榮の軍士亦自ら大の推定てかゝるも必し榮の軍士も  
 必す劉高が為小我を犯し命を失ふと云れ夫人の新教頭も亦いまた我が  
 武藝の猛と云ふはしこも我を撃んと欲すめ汝亦我をく奪るとも榮の族  
 も尹の孫も及べさ我亦あつて率亦に敵し非命の死を做人より速に人教を  
 纏めて立回すべしゆい云小持の人は人もせして回すまゝと云と夫人の新教  
 頭云我劉知寨の命を承り乃ち汝を撃て滅せぬ復さんと欲はいうんぞ  
 私のお志を以て人数を退んや只汝を一戦を遂て勝負を定すべしと花榮  
 是と云て呵くと大に笑ひ引弓小矢を搭て凌月のごく拽緊弦し熬て  
 去と放ちられま先小進んる一人の新教頭が尤の眼小射中第一の箭を

放て又一人の新教頭が喉小射中し如に夫人の新教頭忽ち地上小倒れ  
 死ならず法の軍率先を見て大に驚き悉く口面八方に逃散す再び矢掛  
 らんまもあし。此時先榮法の教人亦小命を失ひつと云と夫人は  
 涙り宋に小まこえ云るは榮傑て去見は若と云と夫人は又今又後悔止  
 るるに宋に云賢賢何ぞ及てかとの事と云と夫人は汝を以て我を以て災  
 と云りゆべし一家中の老少をこれと難儀小思ふべし彼劉高定めては仇を  
 報せんといを思ふと小我が害も又報じ死計を施さば可るらんや花榮も  
 け友穢と云ふ棄て彼と理論せむしも殺さとのわらまが先兄必も憂ひ  
 向ふと云らん宋に云劉高が妻はいるる夫人をわかくのこしく恩を以て仇と  
 我と再三あしめらるる我れと実名を告んと思ひしが只聞かば事又もや  
 棄んと怖れしす作て鄆城縣の穢人張三といふ名と云と云と彼劉高を

城縣の縣の字を改めて虎の字に乃ち鄆城虎張三と去て獲て挿し已に  
 囚車に載り州裡に送ると思ひしに賢才來り救ひし我れ先急難を  
 免れぬ花榮これぞ夢と云ふ素向に悲ひる劉公の行と讀書せし文書  
 の名を定めて百姓を憐むるのやめんと事乃書簡の表に長兄の名を  
 劉文と書せぬ後日彼より友司小強へ事及びるも我れ又自ら分辨せし  
 ありんかあしも怖る小定ま宋江が云賢才の言差へり右の強も飯を吃  
 するハ噎んとせ防さ路をゆふの跌んとせ防と云とあり自ら是を捨て看  
 て防ぐとせさずんば却て災を脱れざるべし賢才先の言が家に留めて我  
 奪ひ復そのとるは又今彼が家人ホと追教せし事此を劉公の言を背てこれ  
 とおびんや必定文書とせし友司小強よ「是時我尚此小在て是再び捉  
 ることわらば賢才始終抵難多んと解ふま。あつ我れと背暗小清風山小上

て縣々四方明日汝り彼と去に友司小出て對變に及る去征見せ出せと  
 責て對變に贏安是乃ち黄金の良計之花榮が去素を以これ一勇の夫  
 されば原來長兄の言明遠見に及むる可敷て長兄の計に後へりれは只  
 恐くハ長兄先に痛くおれぬは必む後をば能く宋江が云能ひ持  
 疼痛むとも何ぞ憂とするに足んや先足下州裡小奉り人時對變小奉んで  
 劉公の言も答ハ初と慮安事已に危急小及しとされハ片時も還返りがば  
 我れ只今速小清風山に馳行へしと乃ち膏藥を求めて痔瘻の上に貼  
 する自晚昏小出て汝に花榮小別れ独自清風寨を打出て事々に清風山へ  
 と急ぎなり扱劉公知寨ハ戦ひいと待居る如軍士も居く散く迷回り劉公  
 寨小告て云るハ花榮が猛勇方支款しるは規ひわり是れ小素も勝せぬ  
 と能をばして引返しぬ彼友人の勅教改も已花榮が一箭小各射殺せぬ

派小花榮が勸三、八等采の及ぶ所にわづらふ。劉高の支腕より頼と切る。新殺  
 以て殺され、大小錦旗せし。系、朱文友をいぶ。計畧智恵あり。花榮ハ又武  
 官不て勇猛藝術ハ人小色とらとせ。智華小即てハ却て劉高に及ぶ。なり。以時劉  
 高熱くおひる。花榮必死と青の肉、彼絨で清風山小飯。明日我と争ひせると。わ  
 ち。夜、月小至て事と西に。彼再三抵難。我何と澄見とて。彼小云。傍とを  
 以ん。我と青、急に二三十人の軍士と。又里の外、不、懸絨と俟し。め、及て。捉を以  
 べ。天、急に。揚り。絨と。た。擒と。せば。速人。州裡。不。を。府尹。小。院。へ。又  
 多くの官軍と。僅し。花榮も。僅小。捉て。遂に。被。一。命。と。害し。我。独。以。清。風  
 寨と。霸。点。法。事。令。知。急。して。使。ん。その。せ。已。不。計。と。定。免。を。夜。二十  
 餘人の軍士と。僅し。に。又。里。外。の。橋。上。に。等。宋。江。が。独。清。風。山。小。回。んと。する。と  
 捕。り。め。及。ぬ。に。二十餘人の軍士。果し。て。宋。江。と。捕。へ。遂。小。き。子。小。子。に。綁。め。

引。開。り。れ。劉。知。寨。是。と。見。て。大。小。怪。む。法。の。軍。士。不。小。對。して。云。ら。る。へ。我。う。表。世。知  
 毫。髪。と。差。び。以。絨。法。風。山。小。馳。回。ん。と。活。捕。る。私。り。に。沙。法。と。外。に  
 漏。れ。と。る。れ。且。以。絨。と。後。院。の。内。小。入。至。て。牢。く。ち。ま。べ。と。數。に。命。と。以。て  
 狀。子。と。修。へ。心。腹。の。志。を。人。と。を。夜。喜。州。小。馳。て。以。事。と。從。り。翌。日。花。榮。暗  
 小。思。ひ。り。り。宋。江。に。ま。法。風。山。小。回。し。れ。我。が。心。精。安。ん。せ。り。唯。あ。り。劉。知。寨  
 へ。何。由。免。角。の。志。も。急。す。し。と。自。ら。靜。り。り。鳴。呼。恠。ひ。る。と。疑。ひ。交。に。暗。り  
 たり。彼。劉。知。寨。ハ。人。と。州。裡。小。馳。て。以。事。と。從。り。め。及。ぬ。心。中。急。大。院。し。  
 暗。く。先。何。事。も。あ。り。ぬ。静。り。り。て。は。又。小。妙。と。も。做。ざ。り。り。扱。喜。州。の。府。尹。覆。對。ハ  
 慕。容。雙。名。ハ。彦。達。と。號。し。乃。を。妹。ハ。今。上。皇。帝。徽。宗。天。子。の。内。寵。也。小。合  
 ぬ。笑。妃。なる。由。を。中。々。妹。が。勢。い。小。倚。て。權。威。と。振。ひ。或。居。民。と。殘。害。武。ハ。僚  
 友。と。欺。負。不。仁。不。乃。の。以。ゆ。故。に。以。時。府。尹。後。堂。小。坐。して。是。り。知。に。た。た



の近習劉知寨が状子と携来て府尹小里に府尹これと扱き見て大少孩と  
 花榮ハハ功臣の子孫に何由ぞ小法風山の盜賊と通同するや此罪を  
 重りられぬと云ふに控へて官より先花榮と扱へて事を云ふに乃尚府の  
 兵馬都監と咄んで先に花榮と扱へて事と云ふに命と云ふに於此監對ハ美  
 名ハ信と申し武藝を強うして善州と威法も小因て人皆法三山と  
 呼慣せり。又此三山と云縁故ハ善州支配の内小三山の險山あり第一ハ此  
 法風山第二ハ二竜山第三ハ桃花山這三つの山ハ於て強賊の住居ハ此  
 黃佐者人小須て云るハ我這三つの山と法三山と法三山と法三山と扱へ  
 てとんと誇ませしに人卷て法三山と譚名せり此黃佐ハ相貌兇猛  
 して虎豹の如し身軀長大にして蛟龍小佩あり平生法喪門劍と價法  
 慣ぬけ時黃佐已に府尹が命と奉り於て口八十人の精兵と伴へ夜甲と

美一劍と名一疋の馬に乘りて先劉知寨が門前  
 までとどりられ劉知寨忙へて迎へて後堂に入互に礼あり坐已に定り  
 ぬ小も酒宴と名どしく役け黃佐と款待即ち宋江と引出して黃佐は  
 せめむらハ黃佐が云這賊と且囚車小入紅絹とせ彼が取と包と書上に  
 紙旗と挿し旗の上ハ法風山の賊首鄆城虎張三と出て州裡に送る  
 と名小用名と調へり宋江は自ら辨へてことと察し敢て怒も出さ  
 ず黄佐又劉知寨小問て云知寨は張三と捕へりて花榮も已に  
 知りや劉知寨が云昨夜二更の時分強と捕へ暗に我がに獲し一重  
 なる花榮ハ名ては事と知りさるハ黃佐が云己心かくぬハ又花榮と活捉ん  
 最安し明日大寨の公候小於て酒宴と役け宴席の口方小二三十人の  
 軍士と伏せ我自ら花榮が方へ往て彼小對面し只作て云へ慕容相

黄信 奸計 捉花 榮



新編入清書信卷之三



新編入清書信卷之三

公頃日下ホ友人文武知寨不和なることと嘆及びむ。特く我々已不  
 知寨と和睦さるべしとのことと告て。宜しく彼を誑さず嫌して公  
 廳に誘ひ去らる。既小飲酌始り。我々益々擲る。以てお尋と定め  
 己方の伏勢一齊小出て。花菜と捉へ不速御めて洲裡に送る。只今  
 計はいん劉言をれと。嗚呼再三嘆嘆して云らる。計計大不神妙といふく  
 計良計と行ひむ。花菜と活捉ん。恰も囊の内を探て。抱せ丸く  
 有んと。幸夜已小計と議定し。翌日大寨のたたみ辺に於て。軍士休  
 廳上。酒宴と役けて。法事令々調。胡鈸後。黃燈。小お茶。並ち花  
 菜の小寨。小弛門。林に立し。六右の士。因小入。花菜小。新と告。知に。花菜  
 忙しく出迎。便ち延て。廳上。に。賓主の礼。已に早り。られ。花菜。先。黄燈  
 小。同て。云。初。盤。相。公。ハ。何。の。公。用。小。依。て。計。辺。に。來。條。り。や。黄。燈。管。へ。て。素。府。尹

の今と交て。計知に。來れり。乃ち。是。下。等。友。知。寨。文武の友。僚。不。知  
 した。因て。之。を。何。由。不。和。ふ。あり。む。と。府。尹。相。公。再。三  
 是と。憂ひ。慮り。む。ふ。友。知。寨。已。不。和。なる。必。定。私。仇。に。因。て。公。事。と  
 得。て。之。を。わ。らん。軍。に。之。に。和。睦。の。儀。と。調。へ。し。乃。素。府。尹。令。し。と  
 今日。大。寨。の。内。に。酒。宴。と。役。け。し。め。む。別。下。等。文武の友。知。寨。と。後。て  
 和。睦。さ。る。べ。し。との。こと。と。告。下。軍。に。素。府。尹。大。寨。の。公。廳。小。入。り。む。劉。知  
 寨。と。和。と。調。へ。共。に。之。を。法。風。寨。と。ち。り。む。花。菜。は。云。と。告。て。微。く。亦。嘆  
 て。云。ら。る。素。堂。敢。て。劉。言。と。欺。ん。や。劉。小。彼。ハ。正。知。寨。の。こと。と。云。ら。る。素。府。尹。に。法  
 事。と。儀。り。て。之。下。知。と。交。す。と。い。ふ。も。何。由。なる。や。劉。言。ハ。只。素。府。尹。と。見。出  
 して。是。と。責。ん。との。事。欲。せ。り。今日。府。尹。相。公。素。府。尹。不。和。の。こと。と。告。む。む  
 て。亦。く。是。下。と。告。り。む。の。こと。と。告。む。酒。宴。と。公。廳。に。役。し。め。む。て。素。府。尹。が。為。小

和睦と調へんとの厚意。奈何とてつれなくこれと謝せんや。誠不感激の  
 身之其後又花榮に對して低きるの如府相公の如く懇情のこと。  
 是下を人と親切に扱ひおひてのことは萬一刃を動かすことわんとなし  
 是下を人をも朝廷の由る小力を用ひ軍功をも建らし彼劉をたす文  
 友のたさればき高小及んでいきて益ありし是下いよく府尹相公の厚  
 意と感しおろすべく、素小随ひ公願小ありて先共て劉を和睦  
 と調へて花榮をこれと謝して公於監相公の好意列して感佩に務ず  
 と、別酒食と役て先三盃と勅んとする如に黃於監を禱して云。是  
 下が果して素に三盃と勅めんと思ひ多し和睦しおひて後素を宅小  
 きて款待と信べと間今日へ先おく公願に申すのみ。只素に和睦の事  
 こそおぼえられ花榮是とめて書小腹し。子速お素を改て友人ると

並へ並に大寨を建てて馳來り。遂に公廳の上にて坐りし如に劉を呼ぶ來て  
 待居るが黄後花榮が取りしと見て杞りく出迎へ三人坐已に定りぬ  
 黃後於湯宴を具しあり。款酌を催しり。此時家人未だ花榮が来るを  
 寨外小牽出し。牢く寨門を閉さむ。花榮を討むとて黄小とあり。彼  
 一向忠ひるの黃後を我とけし。或友のたされば必定我を憐れむと涙  
 誠不感激に務ずと心中喜悅しと毛頭疑ひざるなり。黃後先盃  
 と把て。劉を勅て云る。府尹相公這回是下未だ知寨不和とて嘆  
 及びぬ。大小これと憂へ乃ち素とせし和睦のことと調へしあり。是下  
 友人寫しく旧怨を念ずしと互に和睦と遂られ。向後依事務之に務  
 商強攻は朝廷の聖恩を報し。友人果して結くかくのこくんが乃ち  
 友片も留つべきとの劉を云素くどき不強不友の後方に府尹相公

互にわくのりく考心と樹多ひて和事と調へしめりて然に懇切の存  
 意之系く友人列に不和のこもるれども府尹相公外人ホグ云しと後  
 ありて既にかく里下とせしと示し由上へ向後列しと眩しく交りあり  
 私の眼で懐きずして互に公用と考一小勅むべきなり是下系く為に府尹  
 相公に宜しくお達し又黄修是を咳て呵々とお笑ひ又第二の盃を以て  
 花榮小勅めて云るは劉知寨今已に云ひしは里下と列に不和のこもる  
 とされむいしく悦びく男之府尹相公向に友知寨不和ととせむるひり  
 の定めく外人ホグありは後へしりるん然れを益親しく交りあり。互小  
 公役とま実小勅めり又見列友前と交るるの中等へ花榮取そしと盃  
 と接へ懇懇小誦く謝しと冷小飲乾られが劉言へ又自く大盃に酒を波  
 くし篩で黄修小勅めて云るは今日於監相公は亦亦來膝と意をありしと。

余く友知寨が為小莫太の福と然くはは酒を初め進し進さるるは  
 余と棄ぬるも小宜しく是を乾又黄修意小盃と接へて云るは劉公  
 何ぞかく懇懇の言や由り余を余敢ては酒を飲乾て以て厚意と謝せ  
 んとて乃ち盃と小小拿。後方と願し然くお是のこく盃を地上小擲  
 去られを忽ち後堂大小等て交迎しりは二十人の軍士一齊に進みお遂に  
 花榮と押へる小小小博りたり。花榮大小等とこれの何事とるはぞと  
 叫りられを黄修罵て云汝尚わへて何事とるはぞと叫りいん。汝擅に酒  
 風山の盜賊と通同して朝廷小背くて罪正に九族を滅し小あれり。死  
 榮が云於監相公初云の公定く征見ありての事とるは然くは征見と  
 見せぬ若征見もなくん。我交しと里下と鏡すま。黄修冷笑して云汝は  
 何征見と看せよと云る我今征見と出して見すべき方必ず歸りてなれ

と別たち命に。一両の囚車と推出さるれば花榮懐てこれせむ囚  
 車の内へ宋江を入れ紙旗を挿し旗の上へ清風山の城を鄆城虎強  
 と書きしれ。忽ちとして大目撃さ明宋江と面を合せ果れむ斗之  
 黄佐又呼て云是がて我が干しと小わはる不吾の對子劉高は花榮  
 汝り分脱わぬ速小今これと云んや花榮宋江を見て黄佐對し云は  
 彼もは我為ふ親類之乃鄆城縣より來りし汝れは。汝も不彼を捕  
 織とするのそむ。刺へ我を綁め日殺し云は。汝も非たり。好遮莫我  
 友司不あり。自ら分辨すべし。汝は速に我を送て友司小ありし。汝も  
 が云汝は已に刺のどくん。友司不於て宜く分脱せし。我今汝を送て州裡小  
 祈べし。と別ち劉高と商議して百姓人の軍士を借し。已に囚車と推  
 しめて州府へを牽せんとも。候定しぬ。又け時府尹へも書後と侍て。尚

廳上に起り。花榮又黄佐對し。と云る。其下と我と何とく。或友之  
 足下り。肯てそ我を憐むのむ。わ。我が衣被と除ずし。囚車に載し  
 めんや。黄佐が云は。と究て易し。何ぞ必しも衣被と除んや。と別劉高は  
 對して云る。花榮が云ふ。友司不於て自ら分脱し。や。ん。は。内。の。改。め  
 ざる。罪人小あり。も。其。宜し。衣被と名をて。州裏に送し。と。乃ち花榮  
 宋江と囚車小載。百姓人の軍士小命。これと擡て。黄佐へ。喪門劍と擡  
 する。小ふ。くれ。劉高は。絵と持て。る。小。乘。遂に。清風。寨と離れて。州府へ  
 け途中に甲冑の上の豪傑侍て。黄佐と追走し。劉高は。捉。宋江花榮  
 と救ひ。王英。孫。び。劉高が。夫人と。捉。山陣小。事。お。く。新編目と。後。と。

新編水滸画傳卷之三拾畢

群玉堂

和漢  
西洋  
書籍  
賣捌處

群玉堂

河內

神書佛書醫書國學  
繪本平本新古賣買  
手遊の方の間  
河內屋孫云衛

依後町三休摺西入

